

## 視覚障がい者や高齢者のための音声ナビを子どもたちと考えるワークショップ

パイオニア株式会社 デザイン部 社員ボランティアの皆様

【パートナー団体:文京区教育委員会 教育推進部教育センター 他】

### ■活動の目的:

パイオニアの企業理念である「より多くの人と感動を」を体現すべく、デザイナーが常日頃意識している UX デザインの考え方を、ワークショップを通して子供たちに体験してもらうボランティア活動です。子供たちとは価値観の異なる高齢者や障がいのある他者の立場になって考え行動することで、多様性への理解を深め、よりよい社会の実現に繋げることを目的としています。

### ■活動を始めたきっかけ(活動開始 2022年7月):

デザイナーが自ら声を上げ、自分たちが世の中にどう貢献できるかを考え直し、SDGsへの取り組みを開始しました。近年は小学生の頃から SDGs に関して学ぶ機会があり、社会貢献や多様性への理解の重要性が高まっています。一方で、学んだ知識を実際に活用できる機会は多くないため、実践型のワークショップを通して、学んだ知識の活かし方を体験し、実感してほしいという思いでこの活動を始めました。

### ■活動内容(ボランティア実数 8名):

#### ●【ワークショップ会場】文京区教育センター/大塚地域活動センター

#### ●【概要】テーマ「徒歩での移動に困っている人の為の音声ナビを考えよう」

本ワークショップは、ファシリテーターのデザイナーと小学生と一緒に音声ナビを考え、実践するところまで体験できます。3つのステップで構成され、実際のUXデザインのメソッドを小学生用にかみ砕いた内容であり、UXデザイン部門がある自社ならではのワークショップとなっています。

①使う人の特徴や移動時の困りごとをピックアップする。

②使う人にとってどんなルートが良いか?どんな音声案内だと嬉しいか?を考え内容をポストイットに書き、地図上に貼っていく。

③ポストイットを貼った実際の道にスタッフが行き、ビデオ通話をしながら歩く。会場のモニターにはその様子がリアルタイムで流れ、考えた音声案内を子供たちに読み上げてもらい、スタッフはその案内通りに歩く。



#### ●【工夫】

子供たちに多様性への理解を深めてほしく、視覚障がい者と高齢者をターゲットユーザーに

設定しました。ワークショップでは「視覚障がい者向けの案内を作るチーム」と「高齢者向けの案内を作るチーム」に分かれ、子供たち 2~3 名とファシリテーターのデザイナー 1 名が 1



グループとなり、子どもたちの意見を引き出しながら進めました。あえてチームを複数作ることで、同じルートの道案内でもターゲットユーザーが違くと「掛ける言葉が変わる」ことを体験してもらう意図です。

例えば「視覚障がい者向けの案内を作るチーム」では実際に白杖を持ち、目を閉じて点字ブロックを歩くことで、「ユーザーの気持ち」を体験してもらいました。視覚障がい者にとっては、白杖での感触が大事な情報となります。「点字ブロックが切れたところを左に曲がって…」や「壁伝いにまっすぐ進み…」のような白杖を通して伝わる手がかりを音声で案内するなど、そのユーザーならではの困りごとに着目できました。

#### ●【参加メンバー】

社内で参加希望者を募り、2 回目以降は規模を大きくしました。ファシリテートを円滑に進めるための手引書の作成や、新たに加わるメンバーにはファシリテートの練習を十分にとり、スムーズに進行できました。集まったメンバーも新卒社員から管理職まで男女共に幅広い年齢の方々がスタッフとして参加しました。参加したデザイナーはファシリテート能力の上達も見込めるため、モチベーションが高く、主体的な参加を後押ししています。

#### ■活動の成果:

これまで 2 回のワークショップを実施し、13 名の子供たちに参加いただきました。

実施後のアンケートでは 9 割以上の参加者から「満点」の評価を頂き、「障がい者の立場で道案内をやったことで新たな発見があった。楽しかった!」といった好意的なコメントも多く、地域の子供たちに楽しく学んでもらえる機会を提供できたことを実感しました。



また、活動後は各種SNSやホームページにて成果を発信し、賛同の声が寄せられました。

第 10 回企業ボランティアアワード『ユースサポート奨励賞』